ジンバブエの牛銀行の紹介

2013年6月12日

日本発の社会貢献FR研究会

6月11日のＮＨＫ国際放送で紹介されたジンバブエの牛銀行について、牛を担保に銀行へのアクセスと資金調達を可能にするという意味で、広義のマイクロファイナンスの一類型とも考えられ、興味深いのでＮＨＫの報道と関連情報を紹介します。

Zimbabwe Cattle Banking：<http://www.youtube.com/watch?v=Bzly0ZJjITU>

<http://www.youtube.com/watch?v=ukVxzAC9xmg>

|  |
| --- |
| 【NHK報道の骨子】  １）牛の飼い主は、ジンバブエの牛銀行に2年間牛を預ける。  ２）牛は銀行に預かられるときに、その価値を年齢や健康状態等によって査定される。査定額は50ドルから800ドルの間である。  ３）牛の飼い主は、牛を担保に銀行に口座を開くことができ、また、お金を借りることができる。  ４）牛の飼い主は、年10％相当の配当を得る。400ドル相当の牛を24頭銀行に預ければ、年間1000ドル近い収入を得ることになる。 |

1. ジンバブエとは（外務省HP国別紹介より）

* 人口約1300万人のアフリカ南部に位置する国。ひとり当たりGNI660ドル（11年世銀）、経済成長率9.3％（世銀）、物価上昇率3.5％（11年政府発表）、失業率約12.3％（12年政府発表）
* 主要産業：たばこ、綿花、鉱物資源
* 2008年に過度の紙幣発行等によるハイパーインフレーションを経験
* 土地改革や選挙プロセスの混乱から、欧米はジンバブエ高官の渡航禁止、資産凍結等の措置をとっている。

２．牛銀行開始の背景

1. アフリカには、銀行口座をもたず、銀行にアクセスできない数多くの貧困層が存在する。サブサハラ・アフリカでは、15歳以上の13％が貯蓄しているものの、金融機関から融資を受けるものは５％にすぎない（世銀発行新マイクロファイナンス・ハンドブックより）。
2. ジンバブエでは、国内500万頭の牛の9割が零細農民に飼育されているが、それら農民のほとんどが銀行口座を有しない。
3. これまで借入の手段を有していなかった零細農民には、牛を担保に、資金を調達し、ビジネスを開始する途が開かれることとなった。すなわち、農村の産業多角化にも良い効果を及ぼす。
4. 牛銀行による新たな金融サービスを開始したのが、TN家畜トラスト（TN Livestock Trust）である。
5. 飼い主は、銀行に牛を預けると、取引の証拠として、証明書が発行される。飼い主は、いつでも牛を引き取ることができる。
6. 銀行は、資産として牛の予防接種や健康状態を良好に維持するように努め、他方で、子供を産ませて資産価値を高めようとする。
7. ジンバブエでは、デポジットをとるMFIに免許を与える方針であり、中央銀行は、国会で審議中なるも、法案成立の暁には、MFIは5万ドルの資産を保有することが、求められることとなる。

３．参考

●　牛銀行としては、Oxfamがカンボジア等で実績を有している。形態はさまざまであるが、その一例としては次のとおり（Oxfam関連記事より）。

①村落コミュニティが牛銀行委員会を立ち上げ、牝牛を必要とする農家を選定する。Oxfamがこのプロセスをサポートする。

②Oxfamが牛を調達し、牛銀行に提供する。

③牛は、農家に貸し出され、子どもを産ませる。牛は主産できなくなれば、他の農民に払い下げる。

●　大塚啓二郎政策研究院大学教授は、東アフリカにおける生産量の高いヨーロッパ牛と、地元の病虫害に強いローカル牛の交配によって改良された牛が生み出す牛乳の生産量の高い改良牛の普及に注目し、牛乳の生産量のみならず、乳牛の糞尿を有機物と混ぜあわせ、発酵を促し、その結果もたらされる堆肥を有機肥料として活用し、さらなる農産物の生産に結びつけるネリカ米ではないもうひとつの「緑の革命」を提唱してきた（下記資料参照）。このような交配種の改良牛を、牛銀行に提供することができれば、さらに農村の発展に寄与するものと考えられる。

●　牛という実物を介して、銀行の管理の下に貧困農民の収入拡大のシステムであり、イスラム金融型マイクロファインナンスの一類型とみなすことも可能と考えられる。

（参考資料）平成19年度外務省委嘱「アフリカにおける農業・農村開発に関する援助方針に関する基礎調査」報告書　平成20年3月　財団法人国際開発高等教育機構　27-28頁参照

以上